

ポラスマイホームプラザ

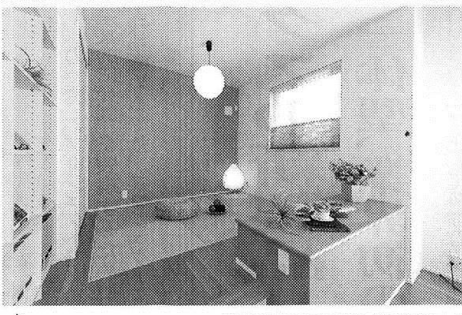
WIB工法や内窓で振動・防音対策

「ナナスクエア 大宮・七里」 『ZA+DOMA』 など3タイプ

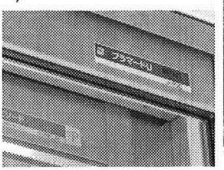
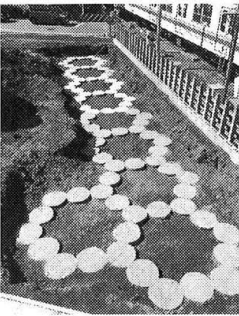
ポラスマイホームプラザ（埼玉県さいたま市、中内啓夫代表）は11日、東武アーバンパークライン（野田線）沿線の建築分譲地「ナナスクエア 大宮・七里」（さいたま市見沼区）の『ノースブロック』の第3期販売を始めた。「ナナスクエア 大宮・七里」は東武アーバンパークラインを挟み『ノースブロック』全25区画と『サウスブロック』全20区画で構成し、分譲地から大宮まで徒歩と電車で20分の好立地がセールスポイント。線路脇のプロジェクトのため、振動対策として実績を持つ「Wave Impeding Barrier（WIB）」工法を施工したほか線路に面する物件に内窓を付け、振動・防音対策を充実させた。間取りはリビングとつながるスキップフロアで畳敷きの『ZA+DOMA』など3タイプを用意している。4月8日には『サウスブロック』で販売を開始する。

大宮まで20分の立地訴求

「ナナスクエア 大宮 スプロック」全25棟の中、利便性を評価して頂き、「七里」は東武アーバンパークラインの七里駅から徒歩11分の場所にある。他社が扱う物件より600万円ほど高い。しかし「大宮まで20分という」販売は『ノースブロック』を先行させ2月11日に第1期として5棟、同25日に第2期9棟をリリース。11日には第3期8棟を発売し13日現在で8棟中3棟契約した。これにより『ノースブロック』は全25棟中モデルハウス3棟を除き販売した22棟のうち、15棟が契約・販売している。



『ZA+DOMA』モデル棟内観（上・中）と施工したWIB工法（右）、内窓付の物件



「ナナスクエア 大宮・七里」は宅地造成に際して、線路沿いの立地ということと電車通過時の振動と騒音対策を充実させた。

振動対策では、大手のハウスメーカーやデベロッパーが開発した神奈川の戸建分譲地への採用などで実績を持つWIB工法を、『ノースブロック』と『サウスブロック』の双方



『ZA+DOMA』のモデル棟外観

の線路沿いの窓を、通常の複層ガラス窓のほか、さらにその内側に内窓を付けた。内窓は、取り付けると外窓との間に空気層を作った良杭で剛性の高い版状あるいは壁状のセル式構造体を構築することによって、上部構造物への振動を低減する振動対策工法。セル形状により振動が分散され、また、セル内で振動エネルギーが吸収されるため、振動を軽減する効果がある。

住空間もアピール
販売する住宅は『ZA+DOMA』・『CAFÉ』・『BOOKS』の3スタイルをラインアップした。このうち『ZA+DOMA』は1階にリビングとつながるスキップフロアの敷畳みスペースを設けたもので、リビングに面する部分に掘り座卓を設置。リビングで過ごす両親が畳スペースで過ごす子どもの様子が自然に目に入るようになっているほか、4・8畳（モデル棟の場合）の広さがあるため親子で過ごすこともできる。また、キッチン脇のリビングには料理をしながら子どもの勉強を見られるスタディカウンターも置いた。

ポラスマイホームプラザは4月8日に『サウスブロック』の販売を始める予定で、大宮までの利便性と作り込んだ住空間、小学校への近さや周辺の豊かな自然などをアピールしていく考えだ。

売済みとなった。東武アーバンパークライン沿線はポラスグループのメイン商圏で、七里駅周辺では数十件の分譲プロジェクトを行っている。いずれも外構や棟配置といった街区全体のデザイン性を高め洗練された街並みを実現、同業他社の周辺物件より値段が高額にも関わらず人気を博している。

「ナナスクエア 大宮・七里」は宅地造成に際して、線路沿いの立地ということと電車通過時の振動と騒音対策を充実させた。